

品川支部

平成30年12月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
TEL 3442-7075

12月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

青年会は創立百周年 この季節はイベント満載

十月二十八日は本部で盛大な青年会創立百周年行事が行われ三万人の青年会会員で、本部中庭が埋め尽くされました。この季節、各教会でも多くのイベントが行われ、支部内の大教会の一つ、日本橋大教会でも例年の「うをみ会」が催うされました。天気にも恵まれ、教会でお誘いした日頃交流のある町会の方たちの顔も見られ千人近い人で賑わっていました。



日本橋大教会
「うをみ会」会場

☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

十二月九日(日)午後六時〜都南にて

・教区ひのきしん

今回は日本橋組です。十二月五日と八日の二回ですので、よろしく願いいたします

・神名流し

一日午前十時から大井町西口ロータリーにて

・在宅センターひのきしん

今月は有りませんのでお間違いの無い様

・支部例会

十二月今月の例会は納めの例会で、日本橋大教会で行われます。大教会長中臺先生の当該教会長お話の後、忘年会を兼ねた食事を用意しております。是非どなたでもご参加ください (詳細 二頁に掲載)

☆教務支庁からのお知らせ

◇基礎講座東京会場

十二月九日は、今年最後の講座になります

◇社会事情担当からの注意

某宗教団体から、名前を変えての日韓の間にトンネルを作りつなぐ会社を作り、そのための寄付金を募っているという事で教会に依頼してくるケースがあるとの事、既に工事が始まっているという画像で説得力を出しているようですので、注意願いますと同時に、もしあれば知らせてくださいとのことですので

青年会より

十月に本部で行われました青年会百周年記念総会は、会員約三万名が集まり賑やかに進めることが出来ました。只、前日に行われました肉フェス等で、事前に食券を購入していたにもかかわらず、長い列に並んだ未売れ切れてしまったりで、大変迷惑、ご不満を与えてしまいましたことが有り、青年会を通じて申し訳なく謝罪の話が有りました。

本部からの修理人巡教について

各教会には三年に一度の割で本部からの修理人の巡教が有りま。一教会、約二時間程度個別に行われませんが、今回は本部准員真柱室ご勤務の深谷忠弘先生が品川支部を担当されます。日取りは、最初は来年一月十七、十八、十九日の三日間に六教会をよていしてあります。あとのよていは未定で二月になる予定です。

拠点教会	22日号	9日号	16日号
日本橋	手配り	手配り	手配り
本 荏	手配り	手配り	手配り
都 南	手配り	手配り	手配り
三ツ木	手配り	手配り	手配り
水豊田	手配り	手配り	手配り

今年は十六日号で
終了です

品川支部例会

平成30年12月21日 (金)

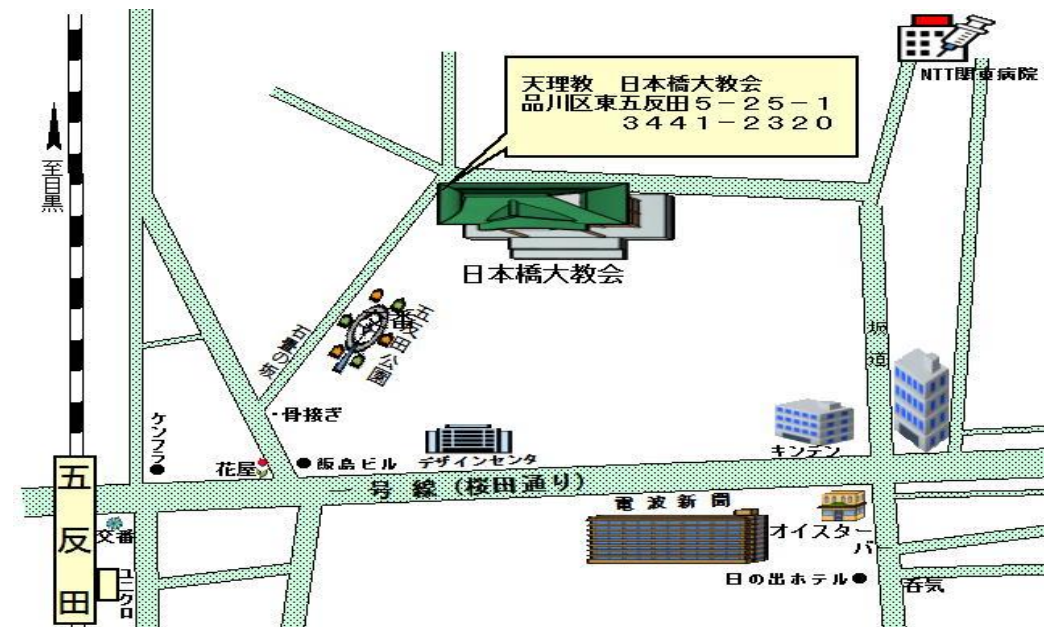
11時開始

場所 日本橋大教会

(品川区東五反田5-25-1)

内容 おつとめ よろづよ八首 12下り目 東京教区、支部連絡事項 当該日本橋大教会長様 挨拶 昼食は忘年会を兼ね用意頂いてます

*各教会の方のほか、どなたでも (白足袋ハッピー着用)



私の信仰

都南分教会長



私は3才の時、背中に大火傷を負っており、今でも背中半面と脇の下、左腕にケロイドの痕が残っております。

高熱のお湯を背中に被りましたので、熱で皮膚が爛れ左脇と腕の内側の一部がくっついてしまい腕が真直ぐ上がらない状態です。

そんな状態で幼少期を過ごして、思春期の頃はそんな自分が嫌で嫌でしようがありませんでした。人の目が気になり、暴自棄にも陥っております。しかし、こんな事では自分がダメになると思ひ、高校生の時に思い切つて水泳をやってみようと思つたのです。泳ぐ事が好きだからではありません。背中のケロイドの痕や腕が上がらないことへのプレッシャーに負けないと思ひ、泳げもしない、又加えて肌を人前にさらすという事に取って挑戦してみたいのであります。

2年くらい過ぎた時、いつものように泳いでいたある日のことです。脇腹と腕の一部がくっついてヒレのようになっている部分が、根元まで裂けてしまいました。皮膚が練習に耐えられなかつたのです。しかし、私自身は痛みをほとんど感じません。神経が死んでしまつているため、血がどんどん流れてしまつていきます。泳ぐのを直ぐに止められ、止血し救急車で入院することになりました。母も駆けつけてくれ、お医者さんが言われるのは、勿論、裂けている部分は縫合しなければならぬが、水泳をしていると、直射日光に当たると火傷は皮膚ガンになる可能性が高いので、この際、皮膚移植をしてはどうか」と持ちかけられました。

私は、長年自分自身の火傷に悩んでおりましたので、これで手術して綺麗にしてもらえると内心では、お医者さんに感謝しておりました。しかし、母は手術はいたしませんとキツパリと断るのです。私は「何故?」と思ひました。こんなひどい親は居ないと思つたくらいです。

その時母は、私に「これは、西海家のいんねんの姿を見せてもらつている。西海家の信仰の最初は、西海家の元一日の話しを長々としてくれ、続いてあなた」が3才で命が無いと宣告された時に、死を覚悟しました。あなたを三宝に乗せ神様に御供をして、あなたの一生を神様の御用に使用して頂くとお誓ひして、今日も一日何か命を授けて貰えたか、一日一日を御守護戴いてきたのです。だから今の姿で充分御守護戴いているのです。あなたの火傷は西海家のいんねんの姿を忘れないように、神様は残しておいてくれるのです。だから手術は至しません。これ以上神様は決して悪くは致しません。良くするのも悪くするのも、あなたのこれからの通り方次第です」と言われたのです。

この時、私は天理教ですごいな。こんな言い切れるものがあるのだ。よし、それならば私も本気で信仰をしてみようかなと思つたのです。今までは門前の小僧で、何気なく親がするから後をついてきた

みたいところがあつたのです。が、初めてこの時、私の心の中を「神様」という存在、神風が通り過ぎていった気がいたしました。初めて、自分自身のいんねんを悟り、自分自身の気持ちの中で本気で信仰してみようと思つた瞬間だつたのです。それ以来、火傷の痕は気にならなくなり、気持ちも楽になりました。それどころか、この火傷の痕を見るたびに、我が家のいんねんを振り返り、感謝できるようになつたのです。

西海道生

